

Back Number

本論文は

世界経済評論 2024年1/2月号

(2024年1月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン販売

変革せよ！企業人事部 ：テレワークがもたらした 働き方革命

福井県立大学経済学部教授 飛田 正之



【著者】白木三秀（しらき みつひで）

早稲田大学名誉教授

【発行】早稲田大学出版部，2023年7月刊

【判型】新書判，218ページ

【定価】本体900円＋税

本書のタイトルからは、テレワークに焦点を当てたものであると思われるが、実はそれ以外にも、近年の日本企業の人的資源管理の変化、そして重要な問題点を幅広く取り上げている本であることを紹介したい。

まず、第一章「パンデミック下のテレワークと働き方革命」は、各種データにより、テレワークの進展と労働や人材管理への影響を幅広く解説している。新型コロナウイルスの世界的蔓延（パンデミック）によるテレワークの進展・浸透が、仕事における「革命的变化」をもたらし、働く人や人事部にインパクトを与えることをデータにもとづき明らかにしている。

さらに第二章、第三章では、日本企業におけるこれまでの人的資源管理の制度や慣行の問題

点にも考察が繋がっていく。

第二章「企業人事部からみるテレワーク」は、筆者と製造業4社のグローバル人事担当者との座談会から、各社のテレワークの現状から始まり、海外派遣、ローカライゼーション、帰任後のキャリアなど、近年の企業における人的資源管理のさまざまな問題が指摘されている。

第三章「越境テレワークから考える「駐妻」のキャリア」は、4名の「駐妻」（夫の海外勤務に帯同している配偶者）との座談会をもとに、越境テレワークの問題点のみならず、「駐妻」の海外での学習、キャリアなどに関する率直な話が展開されている。

第四章「テレワークに伴う働き方革命と企業の人事権」では、テレワークに従事する従業員の労働時間管理の問題を法的な視点で捉えている。さらに、テレワークにより転勤の必要性が少なくなり、企業の人事権に変化が起きていることが指摘されている。

第五章「これからの人材開発と人事ドメイン」は、テレワークの対応をはじめとし、人事部には新たな対応が求められ、人事部のドメインシフトが起き、人事担当者に求められる能力も変化しているとしている。評者も人事部の研究を行っているが、人事の特定領域のスペシャリストではなく、さまざまな問題に対応できるスキルの幅が広い人事担当者が必要であると考えており、筆者の指摘には賛成である。さらに、筆者が長年重要性を唱えてきた「多国籍内部労働市場」の本格的な実現のための新たな施策が提示されている。

近年の人的資源管理の取り組み、問題点、課題などを幅広く、そしてわかりやすく知ることができる本である。そして、章ごとに大きくテーマが異なり完結しており、興味のある章から読むこともできる。人事担当者などにお薦めの本である。

（とびた まさゆき）